

日本分析化学会九州支部 2021 年度 幹事会

日時:令和 3 年 11 月 1 日(月) 13 時 00 分~15 時 30 分

場所:熊本大学黒髪南キャンパス 南 W4(工学部研究棟 II) 2F 203 講義室

出席者(敬称略・順不同):井原敏博(支部長/代議員)、富安卓滋(次期支部長)、田中 充(副支部長)、黒田直敬(監査)、今坂藤太郎(参与)、中島憲一郎(参与)、山口政俊(参与)、稲田 幹(常任幹事)、大庭義史(常任幹事)、高橋幸奈(常任幹事)、西田正志(常任幹事)、浜瀬健司(常任幹事/代議員)、松田直樹(常任幹事)、松森信明(常任幹事/代議員)、吉留俊史(常任幹事)、大平慎一(幹事)、片山佳樹(幹事/代議員)、加藤祐子(幹事)、神崎 亮(幹事)、岸川直哉(幹事)、児玉谷 仁(幹事)、宗 伸明(幹事)、高椋利幸(幹事)、田中 明(幹事)、戸田 敬(幹事)、中園 学(幹事)、能田 均(幹事)、野間誠司(幹事)、巴山 忠(幹事)、松井利郎(幹事/代議員)、光井康浩(幹事/代議員)、森 健(幹事/分析化学編集委員)、横山さゆり(幹事)、吉田秀幸(幹事)、北村裕介(会計幹事)、水城圭司(庶務幹事)

議題(担当者)

## 1 報告事項

### 1) 2021 年度支部事業経過報告および予定

九州分析化学若手の会 第 34 回若手研究講演会および第 39 回夏季セミナー(佐藤世話人)

佐藤世話人(九州工業大学)が欠席のため、水城庶務幹事(崇城大学)が代わって報告がなされた。

7 月 23 日(金)にオンラインで開催し、九州各地から合わせて 122 名(学生 92 名、教員・社会人 30 名)の参加者の参加であった。

本セミナーでは、九州分析化学奨励賞授与式および受賞講演、招待講演、九州分析化学ポスター賞受賞者模範ポスター発表を行った。九州分析化学奨励賞授与式および授賞式では、2020 年度受賞者(1 名)、2021 年度受賞者(3 名)の紹介を行い、授与式を行った。

その後、4 名の九州分析化学奨励賞受賞者による受賞講演と質疑応答を行った。続いて、招待講演を行った。鹿児島大学の満塩 勝先生によるご講演で、「化学センサー開発における研究室と企業間の壁」というタイトルでご講演頂いた。その後、第 58 回化学関連支部合同九州大会での九州分析化学ポスター賞受賞者による模範ポスター発表(5 件)を実施した。最後に、次回の夏季セミナーの世話人である宗 伸明先生(佐賀大学)より、次回夏季セミナー(ホテル&リゾート佐賀唐津、佐賀県唐津市、状況によってはオンライン)の案内が行われ、本年度の夏季セミナーを終了した。

### 第 61 回分析化学講習会(黒田実行委員長)

井原支部長(熊本大学)より、本年度の第 61 回分析化学講習会の開催に関して、年度中の開催は極めて難しく、中止することが決定されたことが報告された。また来年度の実行委員長は、井原支部長(熊本大学)が担当されることが説明された。

### 2021 年度九州分析化学会賞・奨励賞(吉留選考委員長)

5 月 29 日(土)にオンライン開催された選考委員会について、選考委員長の吉留先生(鹿児島大学)から報告された。8 名の選考委員により、奨励賞候補者 3 名に対しては 15 分の発表と 10 分の質疑応答、学会賞候補者 1 名に対しては書類により選考が行われたことが説明された。審議の結果、いずれの候補者も満場一致で受賞対象者とすることが選考委員会において

決定されたことが報告された。また、常任幹事会においてもいずれの候補者も受賞対象者とする  
ことで承認された。本年度の受賞者は以下の通りである。

【九州分析化学会賞】

能田 均先生(福岡大学薬学部 教授)

【九州分析化学奨励賞】

川末 慎葉 さん(福岡大学大学院薬学研究科)

嘉村 匠人 さん(熊本大学大学院自然科学教育部)

河野 雅大 さん(佐賀大学大学院工学系研究科)

第 58 回化学関連支部合同九州大会(水城庶務幹事)

7 月 3 日(土)にオンライン開催された第 58 回化学関連支部合同九州大会について、世話  
人の水城庶務幹事(崇城大学)から報告がなされた。末田慎二先生(九州工業大学)による依  
頼講演や、37 件のポスター発表が分析化学のセッションで実施された。九州分析化学ポスター  
賞審査対象は 37 件で、ポスター賞審査員 10 名によって選考され、受賞者 5 名を決定したこ  
とが報告された。本年度の受賞者は以下の通りである。

【九州分析化学ポスター賞】(5 件)

林 榛菜さん(熊本大院先端)

嘉陽 奈々 さん(九大院工)

江口 奈央 さん(九工大院工)

立石 宙也 さん(九大院工)

佐々木 隆 さん(佐賀大院先進)

機器分析ワークショップ(川上常任幹事)

川上常任幹事に代り、井原支部長(熊本大学)から。今年度の機器分析ワークショップはコ  
ロナ感染状況を見てギリギリまで待ち、緊急事態宣言およびまん延防止も解除にはなったが、  
収束までには至らず今年度は見送りすることになったと報告がなされた。社会全体の雰囲気  
がコロナ禍から脱却して落ち着いたら改めて再開検討に移行する予定である。

HPLC 講習会 2021(浜瀬常任幹事)

浜瀬常任幹事(九州大学)より、2021 年 8 月 11 日(水)に九州大学薬学部において、HPLC  
講習会 2021 を開催概要とその経緯について説明がなされた。参加費用無料、参加者は 20 名  
で、全員分析士の認定試験に合格したことが報告された。

(会終了後の 11/4 追加)11/1 に日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会の委員長  
である中村先生から支部に HPLC 講習会の試験作成費について直接請求があり、11/4 に  
20,000 円を支払った。

2)2021 年度支部会計中間報告(北村会計幹事)

2021 年度支部会計の途中経過について、北村会計幹事(熊本大学)から報告がなされた。  
新型コロナウイルス感染症の影響で講習会及が中止となったこと、若手の会がオンライン開催  
となったことから、大きな収入も支出も発生しなかった。また、第一回幹事会を対面で開催した  
ことにより、旅費交通費及び会議費、賃借料等を一定額使用したが、夏季セミナーや第 1 回常

任幹事会をオンライン開催としたため、次年度の繰り越しは例年よりも多く見込まれることが報告された。

### 3) 本部・支部連絡会議(井原支部長)

9月7日(火)にオンラインで開催された本部・支部連絡会議について、井原支部長(熊本大学)から報告がなされた。分析化学会の運営体制や経理状況に関しての本部からの報告について、会員減に対応するためにまとめられた各TFの項目について説明がなされた。

### 4) 理事会報告(黒田理事)

理事会・臨時理事会の議事録に基づいて黒田理事(長崎大学)から理事に女性3名がオブザーバーとして出席すること(資料09-03)。会員管理と論文管理システムの委託先が変更されること、2023年度の年会在九州で開催されること(資料09-04)、Analytical Sciences誌の出版業務移行について(資料09-07)、2021,2022年度のキャッシュフローについて(資料09-09)、正味財産について収入が前年に-10%、支出が-14%、総計で-1%であること(資料09-10)、2022年度の支部分配額が¥976,300となったこと(資料09-13)、代議員選出の規定改定の提案があったこと(資料09-14)、メールマガジンの内規について(資料09-22)、今後の年会・討論会案について(資料09-35)、分析化学・ぶんせき誌のオンライン投稿・査読システムの変更について(資料09-37)、XSAOの本年度廃止とその移行期間措置について(資料09-42)などについて報告がなされた。

### 5) 各誌編集委員会

#### Analytical Sciences(末田編集委員)

8月6日(木)オンライン開催の第3回編集委員会について、末田編集委員(九州工業大学)にかわり、水城庶務幹事(崇城大学)から来年1月からAnalytical Sciencesが外部委託されること、Analytical Sciencesのインパクトファクター(2020)が2.081であったこと、審査員を対象とした賞が設けられることなどについて報告がなされた。

#### 分析化学(森編集委員)

報告・審議なし

#### ぶんせき(井倉編集委員)

報告・審議なし

### 6) その他

#### 共催・協賛事業(水城庶務幹事)

水城庶務幹事より、2020年に共催が承認されたが2021年に延期となった第43回溶液化学シンポジウム(実行委員長:鹿児島大学 神崎 亮先生)が、新型コロナウイルス感染症の影響により、第44回溶液化学シンポジウムとしてさらに1年延期されることが決定されたが、実行委員等はそのまま継続とのことであったので、共催金は使用目的を引き継ぐ基金としてそのまま次年度に引き継がれることになることの説明がなされた。

11月5日(金)~11月6日(土)開催の第57回X線分析討論会(実行委員長:福岡大学 栗崎 敏 先生)より日本分析化学会九州支部への共催が依頼され、執行部役員で検討し

た結果、共催が承認されたが、オンライン開催へと変更による予算超過のため、共催を維持したまま共催金 3 万円が返納された。またその経緯についても説明がなされた。

## 2. 審議事項

### 1)2022 年度支部事業計画案(井原支部長)

2022 年度計画案について、井原支部長から説明がなされた。第 59 回化学関連支部合同九州大会の開催は令和 3 年 7 月 2 日(土)に予定されていることが説明された。また、来年度開催の第 35 回若手研究講演会および第 40 回夏季セミナー代表世話人の宗 幹事(佐賀大学)よりオンライン開催を予定していると説明がなされた。さらに、来年度の講習会やその他の事業案についても説明がなされ、これらの事業案については提案通りに承認された。

分析化学講習会については、2 月の第 2 回常任幹事会ときには、開催の可否について判断する必要がある。HPLC 講習会については、2022 年度も開催予定とのことであった。

### 2)2022 年度支部予算案(北村会計幹事)

2022 年度支部予算案について、北村会計幹事(熊本大学)から説明がなされた。2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業が中止・延期となり予算の状況が例年とは大きく異なるため、2021 年度予算案は 2019 年度の予算案に基づいて計画されていることが説明され、承認された。

今後の若手の会に関する今後の進め方について議論が交わされた。夏季セミナー助成金は 35 万円とし不足時は支部に相談すること、オンライン会議での予算調整が可能であることなどが議論された。

### 3)支部役員の変更(水城庶務幹事)

飯盛喜代春参与 2020 年末 御逝去について説明し、退会が承認された。

### 4)2022 年度支部・本部関係役員(井原支部長)

2022 年度支部・本部関係役員について、井原支部長(熊本大学)から説明がなされた。理事、代議員は来年も引き続き留任となることが報告された。次年度支部長には富安先生(鹿児島大学)、次々年度支部長には井上先生(大分大学)が就任されることが説明された。また後日常任幹事について交代依頼のメールを送付することを伝えた。

### 5)2023 年度年会の開催場所について(井原支部長)

2023 年度分析年会の開催場所を熊本とし、実行委員長が戸田幹事(熊本大学)となると協議され、承認された。

### 6)その他

#### 資料の引き継ぎについて(北村会計幹事)

まず、会計の膨大な紙の資料について状況の説明がなされ、廃棄の提案があり、承認された。必要となる領収書の原本は、本部へ保管するよう交渉することとなった。

次に、電子データのクラウド保管について提案・協議され、承認された。

(会終了後 11/5 追記)幹事会後北村庶務幹事から本部と交渉した結果、収証原本を本部で保管して頂く案について、スキャンした電子データを原本と同様な正式な書類として存在するこ

とを認める「タイムスタンプ」の付与により、電子データによる原本保存することを会計士の方に相談し、理事会で最終的な判断がなされることになった。

2021 年度支部役員名簿(水城庶務幹事)

10 月 30 日現在の役員名簿が配布された。加筆・修正が必要な場合は、事務局に連絡するよう依頼が行われた。

その他

Asia Analysis(アジアにおける分析化学の国際会議)が、2 年後にマレーシアで開催されるとアナウンスがあった。

今後の若手の会で、日本分析化学会奨励賞について推薦・議論する場を設け、定期的に支部長へ推薦してほしいとの依頼があった。

以上